

## BE ボディー & ボディー外装

〔故障診断〕

### 目次

ドアミラー故障診断 .....	BEd- 3
作業前注意 .....	BEd- 3
システム概要 .....	BEd- 3
構成部品取付位置 .....	BEd- 3
回路図 .....	BEd- 4
正確、迅速な診断のために .....	BEd- 4
診断上の注意 .....	BEd- 4
診断フロー .....	BEd- 5
問診 .....	BEd- 5
診断前点検 .....	BEd- 6
現象別の故障診断 .....	BEd- 6
現象確認 .....	BEd- 6
故障診断早見表 .....	BEd- 6
現象1 ドアミラーが右、左側共に全く作動しない .....	BEd- 7
現象2 右側ドアミラーが作動しない (左右作動、上下作動のどちらかの作動不良を含む) .....	BEd- 7
現象3 左側ドアミラーが作動しない (左右作動、上下作動のどちらかの作動不良を含む) .....	BEd- 8
現象4 ドアミラーが電動格納しない .....	BEd- 9
ヒーターミラー故障診断 .....	BEd-10
作業前注意 .....	BEd-10
システム概要 .....	BEd-10
回路図 .....	BEd-10
正確、迅速な診断のために .....	BEd-11
診断上の注意 .....	BEd-11
診断フロー .....	BEd-11
問診 .....	BEd-12
診断前点検 .....	BEd-12
系統別の故障診断 .....	BEd-12
点検1 電源及びアース系統点検 .....	BEd-12
点検2 ヒーターミラータイマー (リヤデフォグガータイマー) 系統点検 .....	BEd-13

## 目 次

---

点検3 ヒーターミラー系統点検 .....	BEd-14
オートスポイラー故障診断 .....	BEd-15
作業前注意 .....	BEd-15
システム概要 .....	BEd-15
構成部品取付位置 .....	BEd-16
回路図 .....	BEd-16
正確、迅速な診断のために .....	BEd-17
診断上の注意 .....	BEd-17
診断フロー .....	BEd-17
問診 .....	BEd-17
現象別の故障診断 .....	BEd-18
現象確認 .....	BEd-18
作動確認 .....	BEd-18
故障診断早見表 .....	BEd-19
現象1 セレクトスイッチをDOWNにしてもオートスポイラーが下降しない .....	BEd-20
現象2 セレクトスイッチをUPにしてもオートスポイラーが格納しない .....	BEd-22
現象3 トランスミッションのシフトレバーをリバースに入れても オートスポイラーが格納しない .....	BEd-24
現象4 パーキングブレーキを解除してもオートスポイラーが格納しない、 又はDOWN SWを押すと下降してしまう .....	BEd-25
現象5 規定車速になってもオートスポイラーが作動しない、 又はパーキングブレーキを引いた状態で走行しても格納しない .....	BEd-26

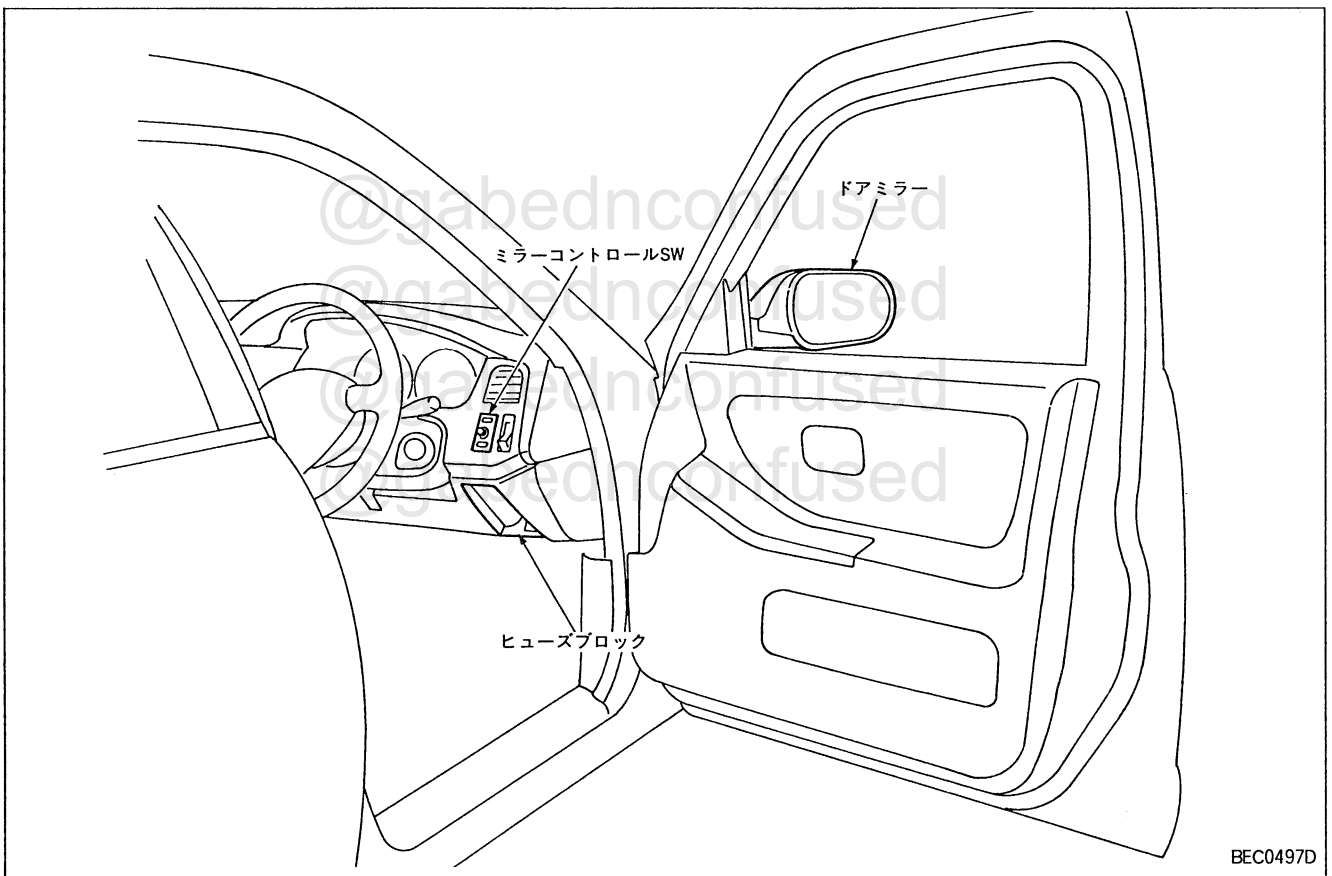
## 作業前注意

- コネクターの脱着は電源OFFの状態で行う。
- 故障箇所を修理するときには、バッテリーのマイナスターミナルを必ず外した状態で行う。
- 故障診断条件は、キーSW ACCとする。
- また、故障現象が明らかに電気系に起因すると推定される場合には、ヒューズ又はヒューズブルリンクの溶断及びコネクター付近の断線、端子抜け、かん合不良などについても点検を行うこと。

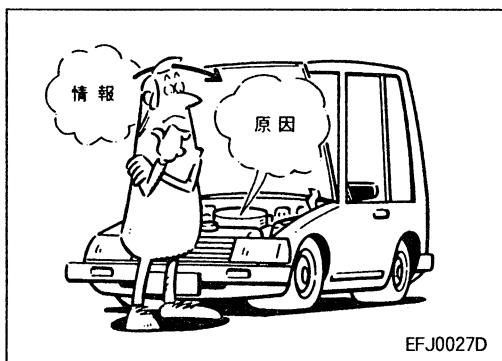
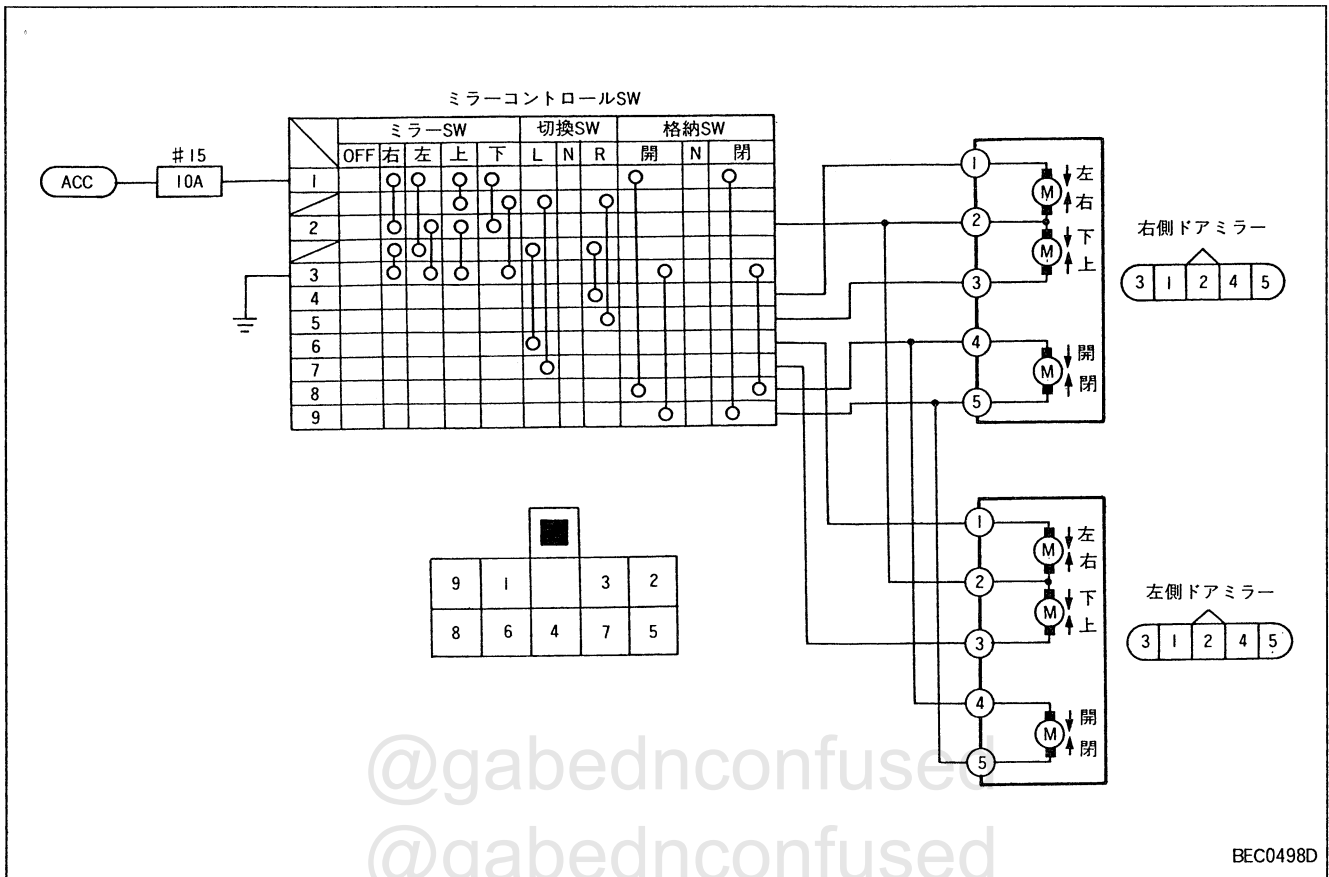
参考：断線及び端子抜けの修理方法については「ニッサンコネクター一覧（日産車のコネクターと端子の整備）資料コードNO.N200005」を参照のこと。

## システム概要

### 構成部品取付位置



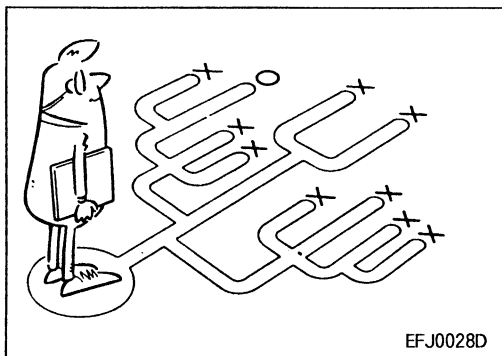
回路図



正確、迅速な診断のために

再現性に乏しい不具合は、再現性のある不具合より診断は困難であるが、その多くはコネクタの接触不良又は配線の不良である。

このケースは、正常部品の交換を防止するため、不具合回路を注意深く点検する必要がある、目視点検だけでは不具合の原因は見つけることが出来ないため、不具合回路にテスターを接続し確認する必要がある。

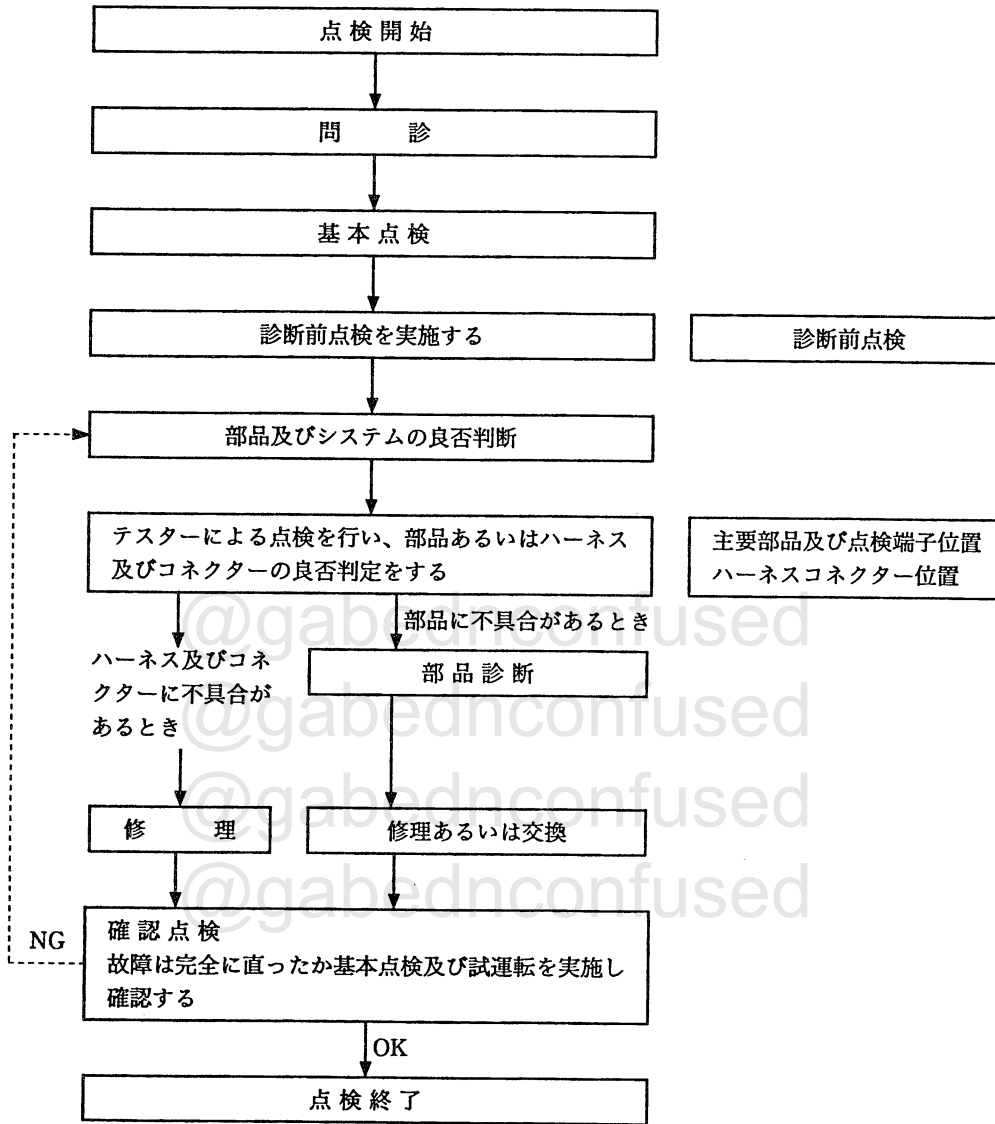


点検を始める前にお客様がどのような現象に不満を感じているかを明確にしておくことが大切である。

診断上の注意

診断をする前に「GI編電気系統の点検、コントロールユニット及び電子部品に関する注意」の項参照のこと。

診断フロー



BEC0121D

問診のポイント
• 何が.....車種、エンジン型式
• いつ.....日時、発生頻度
• どこで.....道路状況
• どのような状態で.....走行状態、環境
• どのようなになった.....現象

EFJ0340D

問診

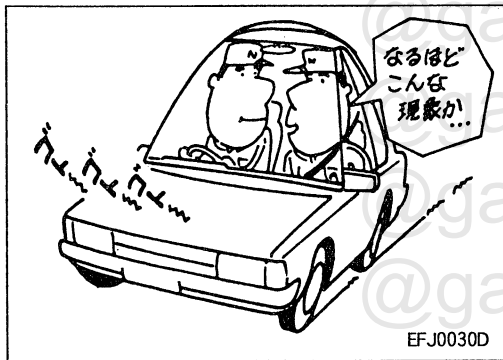
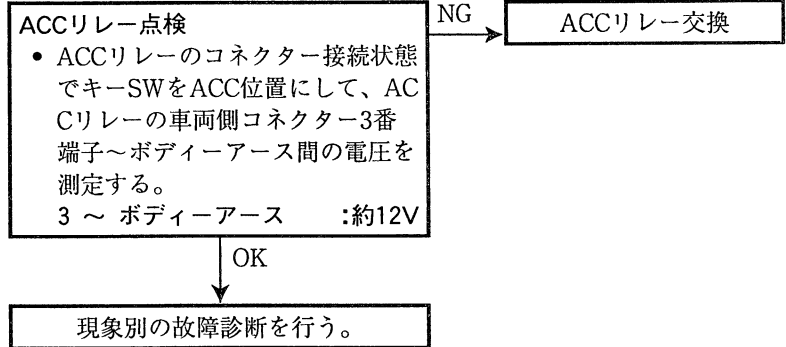
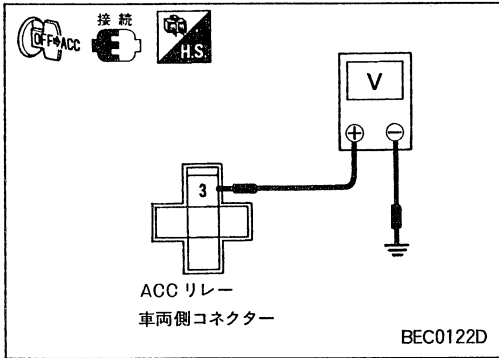
- 不具合に対する感じ方は人により多少異なるため、お客様がどのような現象に不満を感じているかを明確にしておくことが大切である。
- また、どのような状態のときに、どのような不具合が発生するかをお客様に聞いておき、実車確認の際の不具合再現の参考にする。
- 問診シートを用意する方法も聞き漏らしをなくす上で有効であるので活用すること。

診断前点検

- ドアミラー故障診断を行う前に、ヒューズブルリンク及びヒューズの点検を行うこと。(下記参照)

名 称	系 統	主 な 負 荷
F/L-3 100A	BAT	ACCリレー
ヒューズ# 25 10A	ACC	ミラーコントロールSW

- インストロアパネル右を取り外した後、ヒューズブロック部のACCリレーを点検する。



現象別の故障診断

現象確認

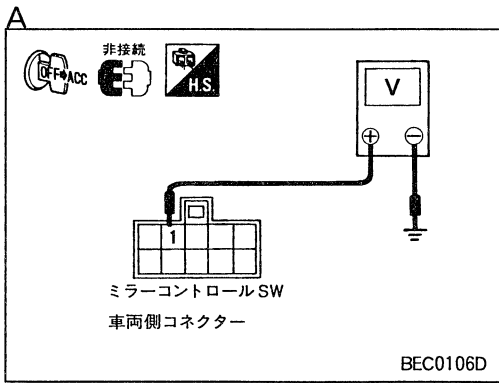
- お客様の説明だけでは車両の状態を把握しきれない場合が多く、実車確認により不具合を再現させて状況を分析する必要がある。不具合を再現できない場合はお客様に発生状況を確認して特定の条件下で確認する。  
また、再現の乏しい不具合などでは、ハーネスなどを手で動かしながら確認し、接触不良などがいないか確かめることも必要である。なお、実車確認では不具合現象の発生状況だけではなく、正常な部分の状況を把握しておく原因の探究に役立つ。
- また、このときに、リアルタイム診断を行いながら現象確認を行う。その不具合発生時にリアルタイム診断で異常が表示された場合、その系統に絞って点検していく。

故障診断早見表

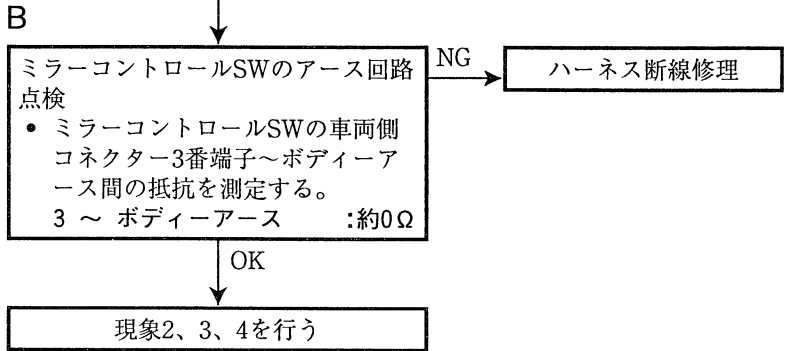
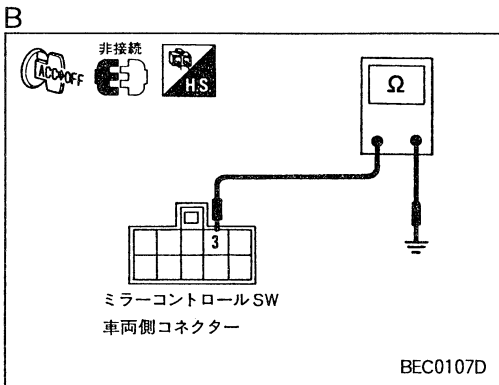
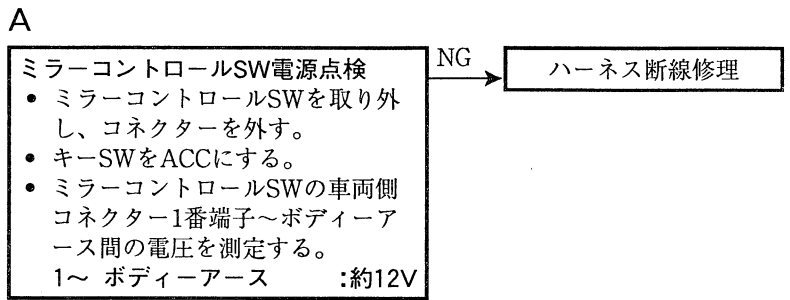
- 現象確認の結果を下表にあてはめ、該当する各部品を現象別診断のフローチャートにより点検する。

ドアミラーが右、左側共にまったく作動しない	現象1
右側ドアミラーが作動しない (左右作動、上下作動のどちらかの作動不良を含む)	現象2
左側ドアミラーが作動しない (左右作動、上下作動のどちらかの作動不良を含む)	現象3
ドアミラーが電動格納しない	現象4

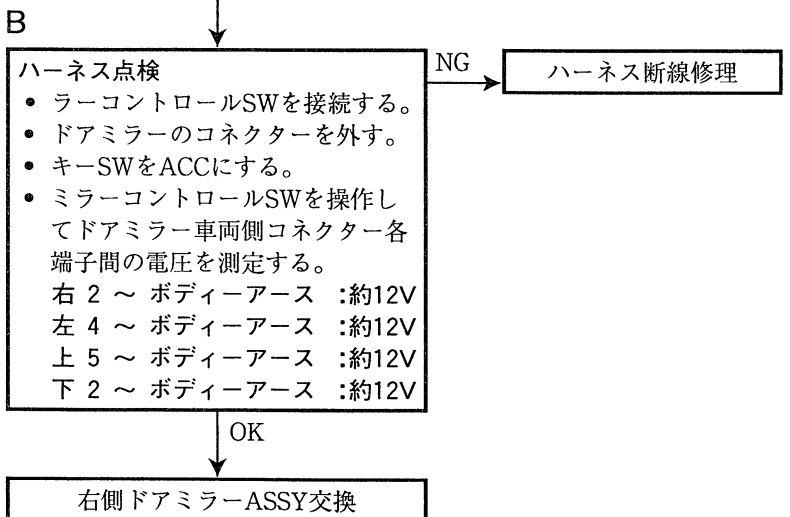
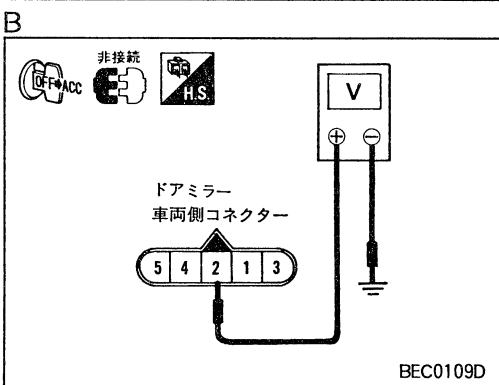
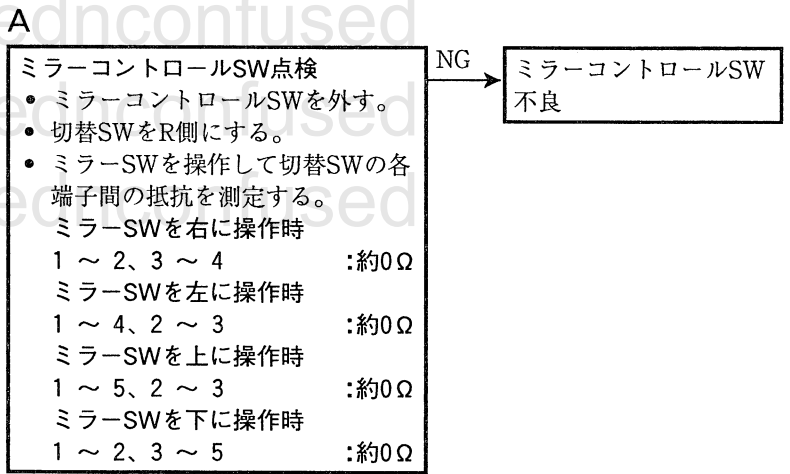
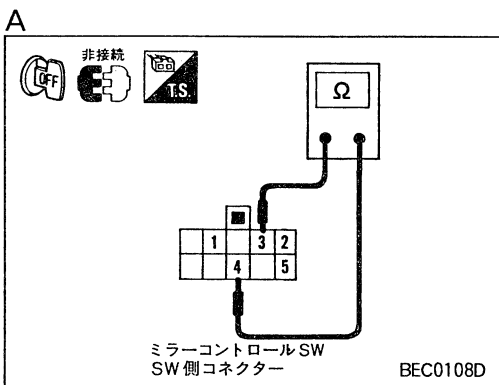
# ドアミラー故障診断

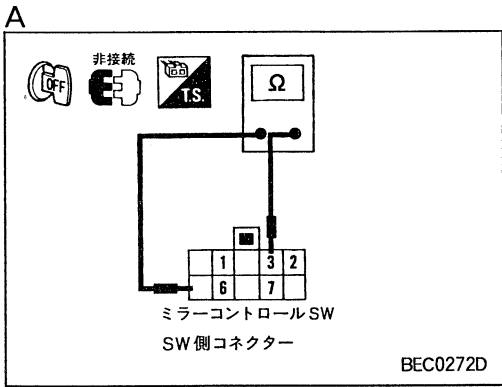


現象1 ドアミラーが右、左側共に全く作動しない

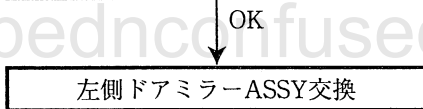
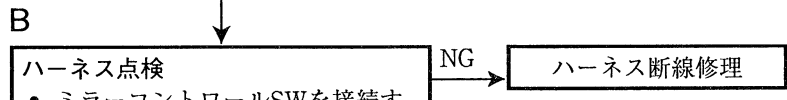
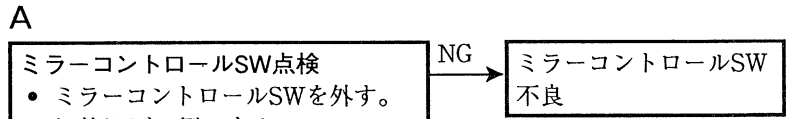
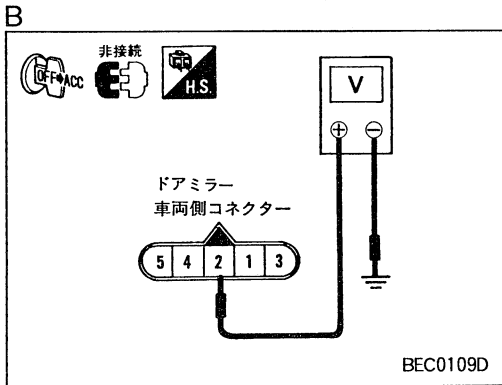


現象2 右側ドアミラーが作動しない（左右作動、上下作動のどちらかの作動不良を含む）

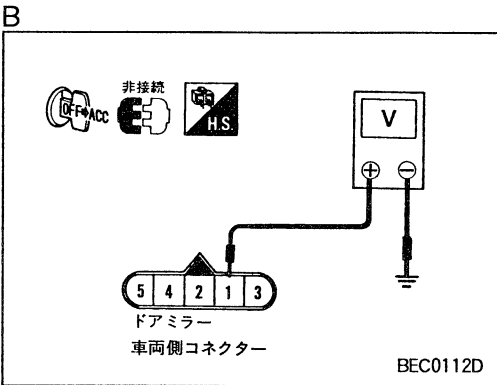
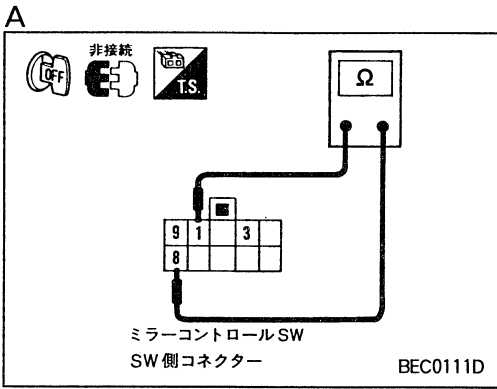




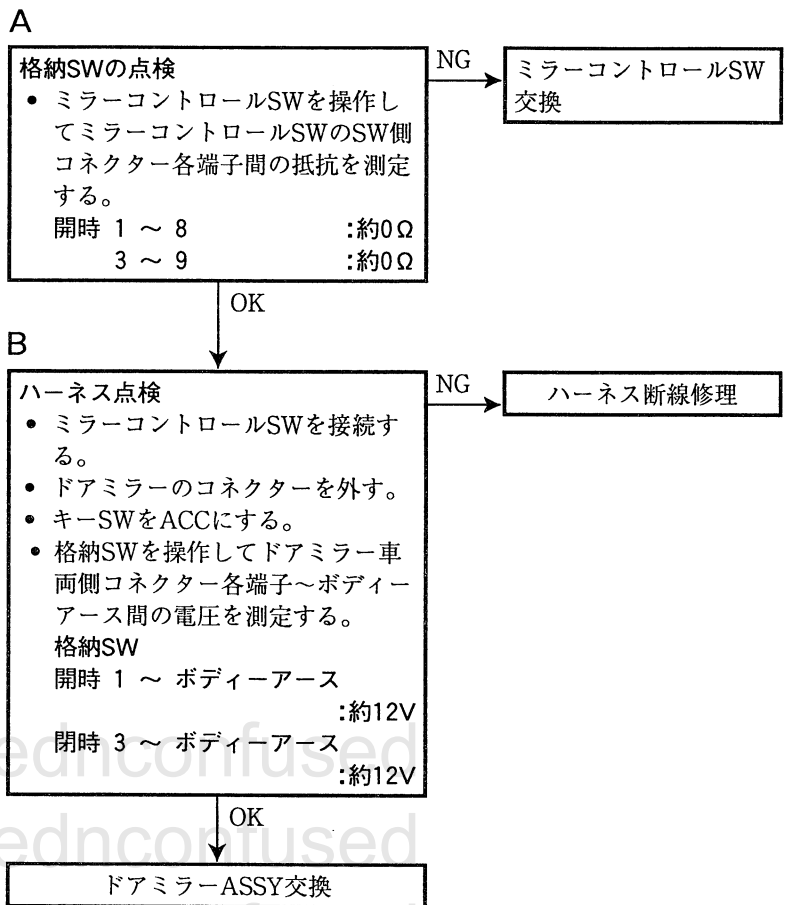
現象3 左側ドアミラーが作動しない（左右作動、上下作動のどちらかの作動不良を含む）







現象4 ドアミラーが電動格納しない



## 作業前注意

- コネクターの脱着は電源OFFの状態で行う。
- 故障箇所を修理するときには、バッテリーのマイナスターミナルを必ず外した状態で行う。
- 故障診断は、キーSW ON状態で行う。
- また、故障現象が明らかに電気系に起因すると推定される場合には、ヒューズ又はヒュージブルリンクの溶断及びコネクタ付近の断線、端子抜け、かん合不良などについても点検を行うこと。

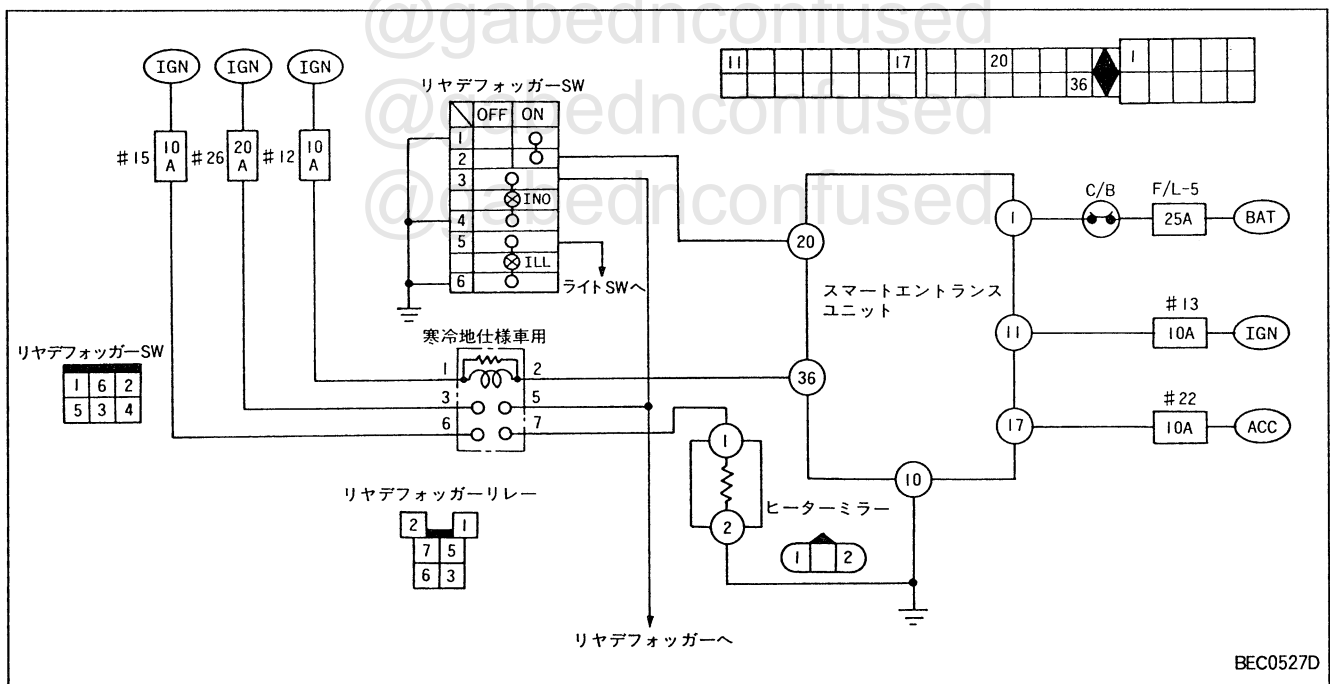
参考：断線及び端子抜けの修理方法については「ニッサンコネクタ一覧（日産車のコネクタと端子の整備）資料コードNO.N200005」を参照のこと。

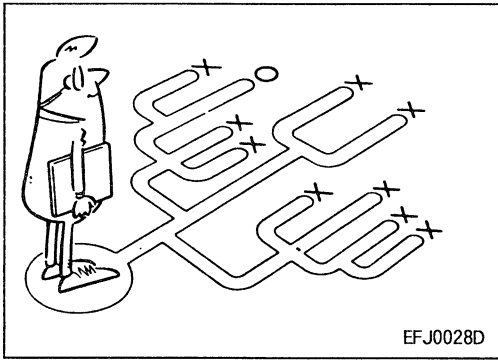
- 故障診断を行う前にシステムの不具合現象を確認し、診断前点検及び系統別の故障診断に従い、故障診断を行うこと。

## システム概要

ヒーターミラーは、リヤデフォッガーが作動する（スイッチをON）と作動し、リヤデフォッガータイマーにより約15分間作動した後自動的に停止する機構である。

## 回路図





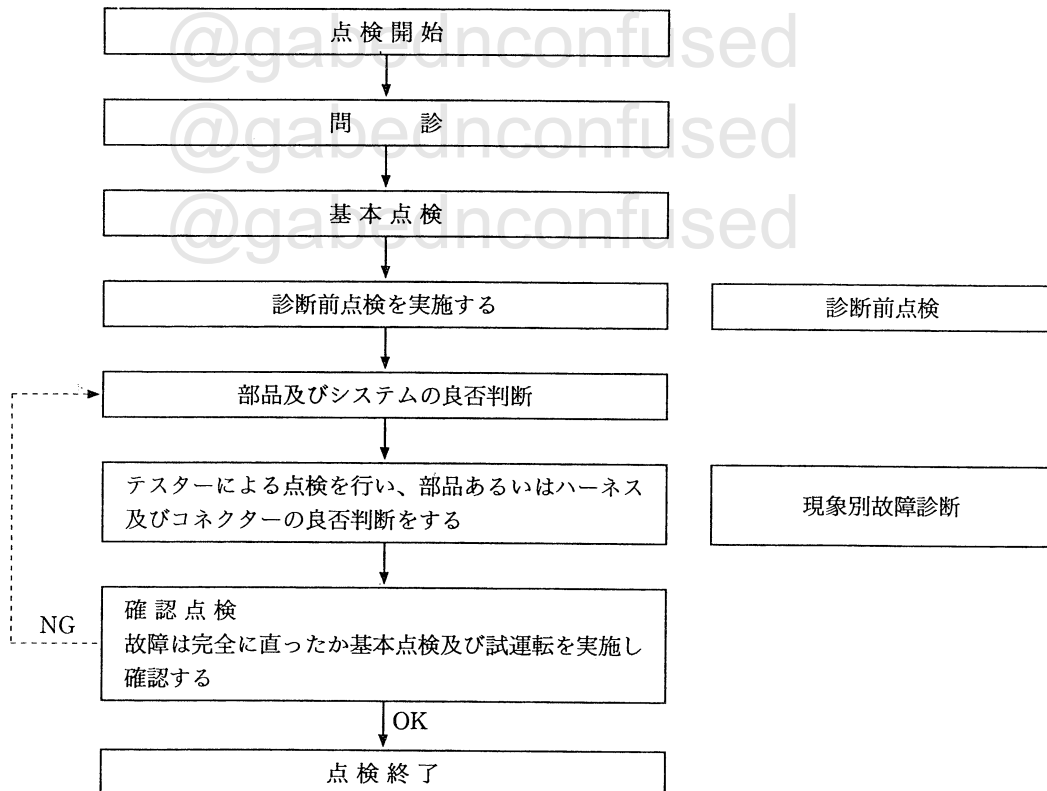
正確、迅速な診断のために

- お客様の説明だけでは車両の状態を把握しきれない場合が多く、実車確認により不具合を再現させて状況を分析する必要がある。不具合を再現できない場合はお客様に発生の状況を確認して特定の条件下で確認する。
- 点検を始める前にお客様がどのような現象に不満を感じているかを明確にしておくことが大切である。

診断上の注意

診断をする前に「GI編電気系統の点検、コントロールユニット及び電子部品に関する注意」の項参照のこと。

診断フロー



BEC0528D

## 問診のポイント

- 何が ..... 車種、エンジン型式
- いつ ..... 日時、発生頻度
- どこで ..... 道路状況
- どのような状態で ..... 走行状態、環境
- どのようになった ..... 現象

EFJ0340D

## 問診

- 不具合に対する感じ方は人により多少異なるため、お客様がどのような現象に不満を感じているかを明確にしておくことが大切である。
- また、どのような状態のときに、どのような不具合が発生するかをお客様に聞いておき、実車確認の際の不具合再現の参考にする。
- 問診シートを用意すると聞き漏らしをなくすことが出来るので活用すること。

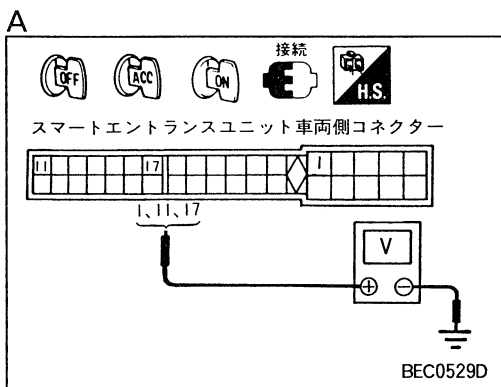
## 診断前点検

- ヒーターミラー故障診断を行う前に、ヒューズ及びヒューズブルリングの点検を行うこと。

名称	系統	主な負荷
# 12 10A	IGN	メーター
# 13 10A	IGN	パワーアンテナ
# 15 10A	IGN	ヒーターミラー
# 22 10A	IGN	オーディオ
# 26 20A	ACC	リヤデフォグガー
F/L-5 25A	BAT	パワーウィンドー

## 系統別の故障診断

### 点検1 電源及びアース系統点検



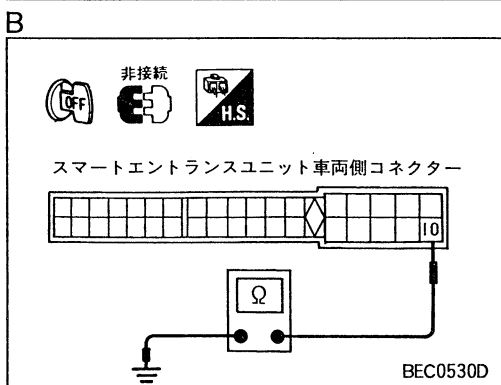
A  
スマートエントリーC/U電源点検

- キーSWをOFF、ACC及びONにする。
- スマートエントリーC/U車両側コネクタ1、11、17番端子～ボディーアース間の電圧を点検する。

1 ～ ボディーアース

キーSW OFF :約12V  
キーSW ON :約12V  
17 ～ ボディーアース :約12V  
キーSW ACC :約12V

NG → 電源系ハーネス不良



B  
スマートエントリーC/Uアース点検

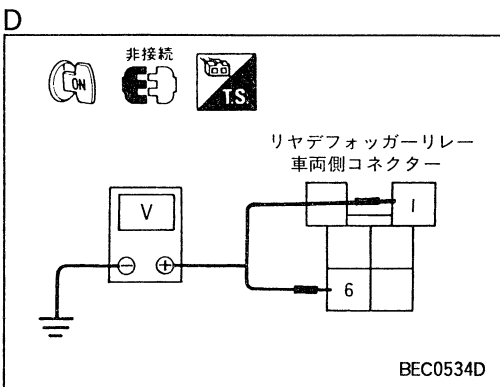
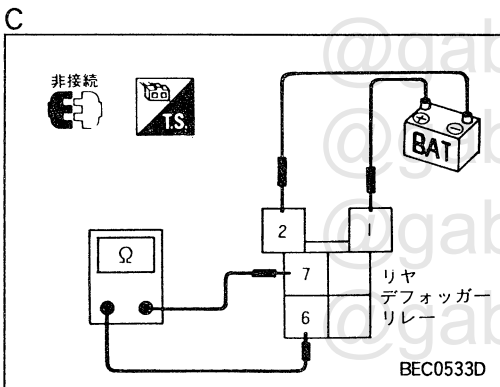
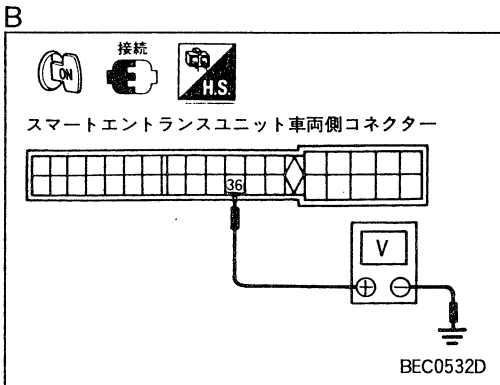
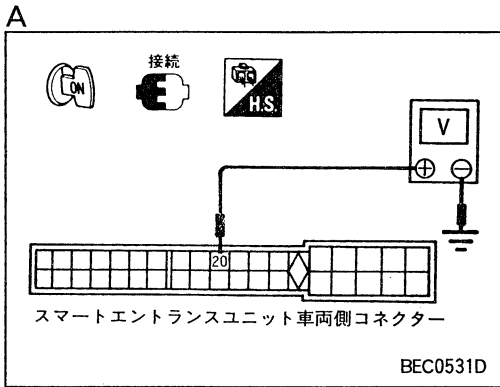
- スマートエントリーC/Uのコネクタを外す。
- スマートエントリーC/U車両側コネクタ10番端子～ボディーアース間の導通を点検する。

10 ～ ボディーアース :導通あり

NG → アース系ハーネス不良

OK → 点検2、3へ

# ヒーターミラー故障診断



## 点検2 ヒーターミラータイマー (リヤデフォッガータイマー) 系統点検

リヤデフォッガー-SW点検  
(「BEL編リヤデフォッガータイマー故障診断、構成部品点検」の項参照)

NG → リヤデフォッガー-SW不良

**A**

リヤデフォッガー-SW入力信号点検

- キー-SWをONにする。
- リヤデフォッガー-SWを操作したとき、スマートエントランスC/U車両側コネクタ20番端子～ボディーアース間の電圧を点検する。

20 ～ ボディーアース  
リヤデフォッガー-SW OFF : 約12V  
リヤデフォッガー-SW ON (SWは押した状態) : 約0V

NG → リヤデフォッガー-SW～スマートエントランスC/U間ハーネス不良

**B**

リヤデフォッガーリレーへの出力信号点検

- リヤデフォッガー-SWを操作したとき、スマートエントランスC/U車両側コネクタ36番端子～ボディーアース間の電圧を点検する。

36 ～ ボディーアース  
リヤデフォッガー-SW OFF : 約12V  
リヤデフォッガー-SW ON (SWは押した後はなす) : 約15分間のみ0V

NG → スマートエントランスC/U不良

**C**

リヤデフォッガーリレー単品点検

- リヤデフォッガーリレーを外す。
- リヤデフォッガーリレーの1～2番端子間に約12Vの電圧を接続させたときに6～7番端子間の導通を点検する。

6 ～ 7  
12V加えたとき : 導通あり  
12V加えないとき : 導通なし

NG → リヤデフォッガーリレー不良

**D**

リヤデフォッガーリレー電源経路点検

- リヤデフォッガーリレー車両側コネクタ1、6番端子～ボディーアース間の電圧を点検する。

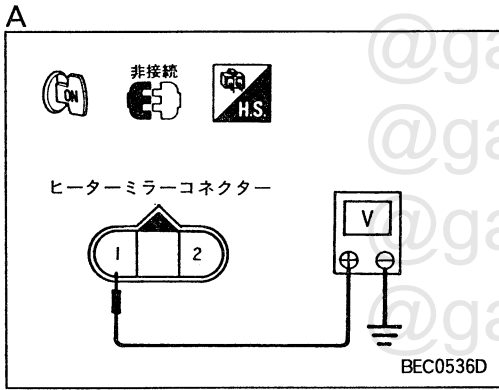
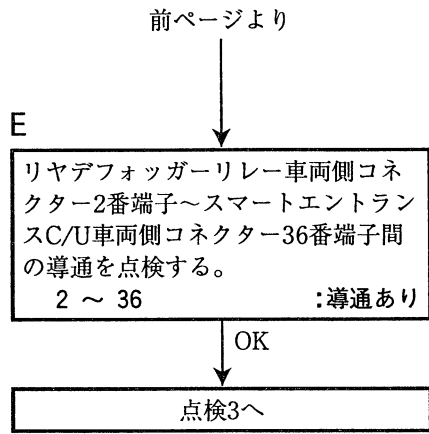
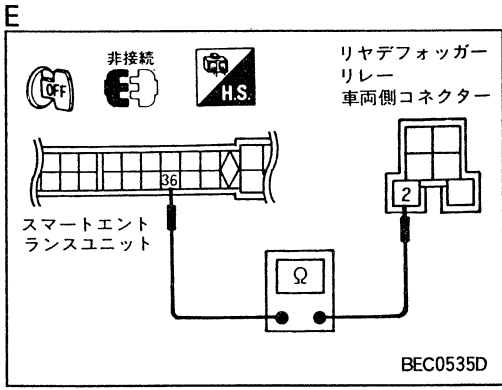
1、6 ～ ボディーアース : 約12V

NG → リヤデフォッガーリレー電源経路不良

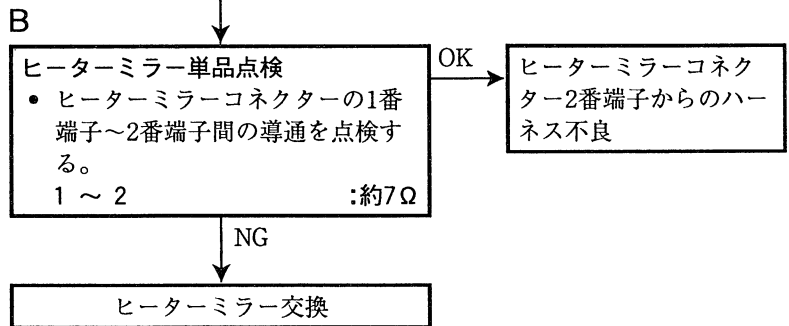
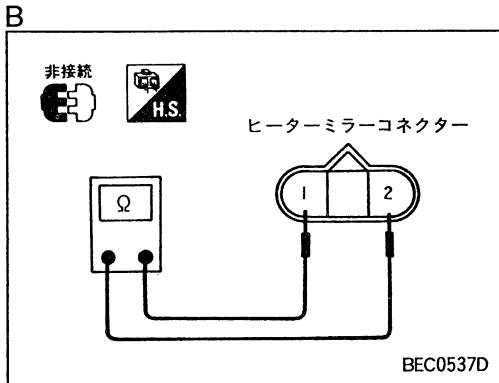
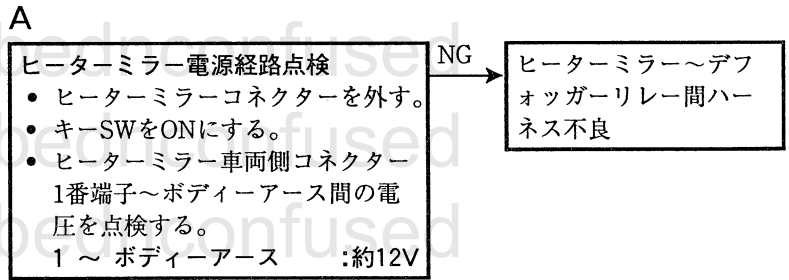
OK → 次ページへ

# ヒーターミラー故障診断

## 点検2 ヒーターミラータイマー (リヤデフォッガータイマー) 系統点検 (続き)



## 点検3 ヒーターミラー系統点検



## 作業前注意

- コネクターの脱着は電源OFFの状態で行う。
- 故障箇所を修理するときには、必ずバッテリーのマイナスターミナルを外した状態で行う。
- 故障診断条件は、キースイッチON状態とする。
- また、故障現象が明らかに電気系に起因すると推定される場合には、ヒューズ又はヒューズリンクの溶断及びコネクター付近の断線、端子抜け、かん合不良などについても点検を行うこと。
- 停車時に、手動操作によりオートスポイラーを下降させる場合は、車両前端部に障害物がないことを確認してから操作を行うこと。
- エンジン停止時の手動操作は、必要以上に操作を繰り返した場合、バッテリー上がりの原因となるため、必要最小限の操作にとどめること。
- 駐車時、車両より離れる場合は、盗難及びいたずら防止のため、オートスポイラーを下降状態にしたまま放置しないこと。
- 異物のかみ込みや、凍結などの原因により、完全な作動ができないときには、保護機構（サーキットブレーカー及びタイマー機能）により、回路への電流が遮断され、オートスポイラーは途中で停止する。この場合は、キースイッチをOFFにして、原因を取り除いた後、再度確認を行うこと。

参考：断線及び端子抜けの修理方法については「ニッサンコネクター一覧（日産車のコネクターと端子の整備）資料コードNO.N200005」を参照のこと。

- 故障診断を行う前にシステムの不具合現象を確認した後、故障診断早見表を使って不具合項目から診断手順を確認し、診断前点検及び不具合現象別故障診断手順に従い、故障診断を行うこと。

## システム概要

オートスポイラーは、セレクトSWのON、OFF操作又は、走行条件（車速、セレクトSW位置）などにより、下降又は格納するシステムです。オートスポイラーは、下記条件により下降（DOWN）又は格納（UP）する。

オートスポイラー格納（UP）状態から、オートスポイラー下降（DOWN）条件

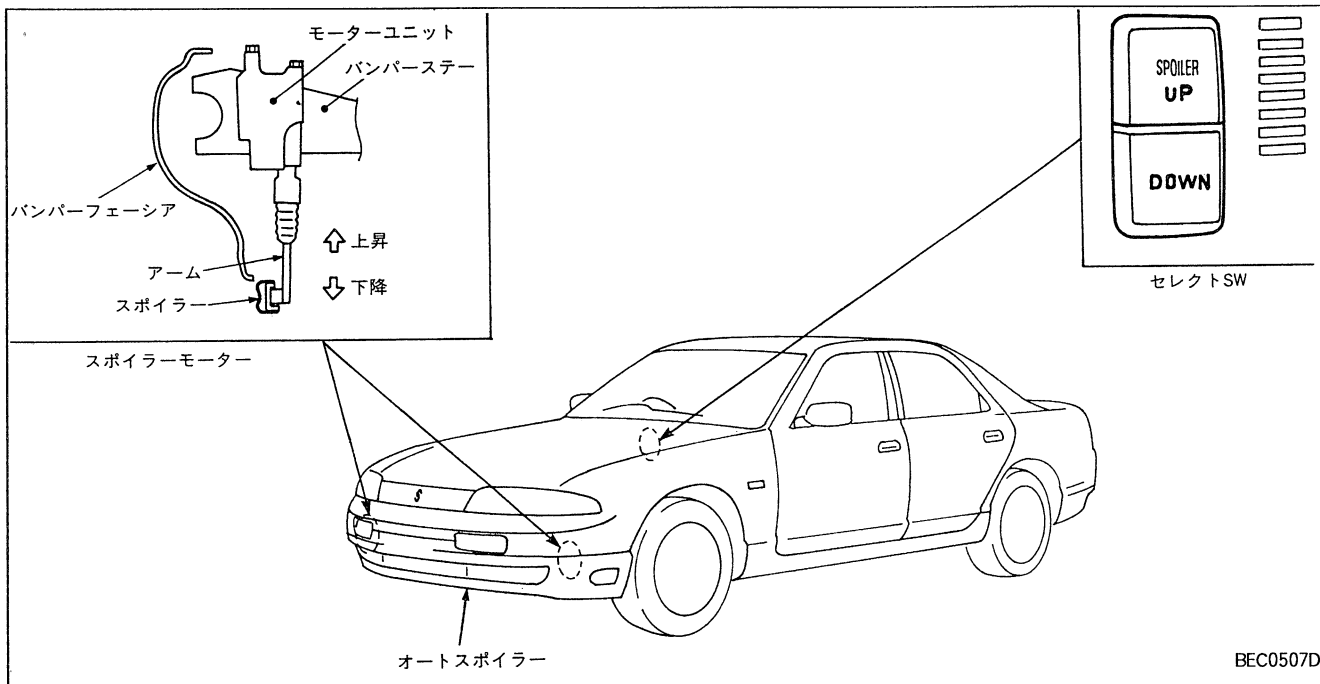
- 車両停止状態で、キースイッチON位置、パーキングブレーキ作動中及びトランスミッションのシフトレバーをリバース位置以外にして、セレクトSWをDOWNにしたとき。
- 車両走行中の車速が70km/h以上のとき。

オートスポイラー（DOWN）状態から、オートスポイラー格納（UP）条件

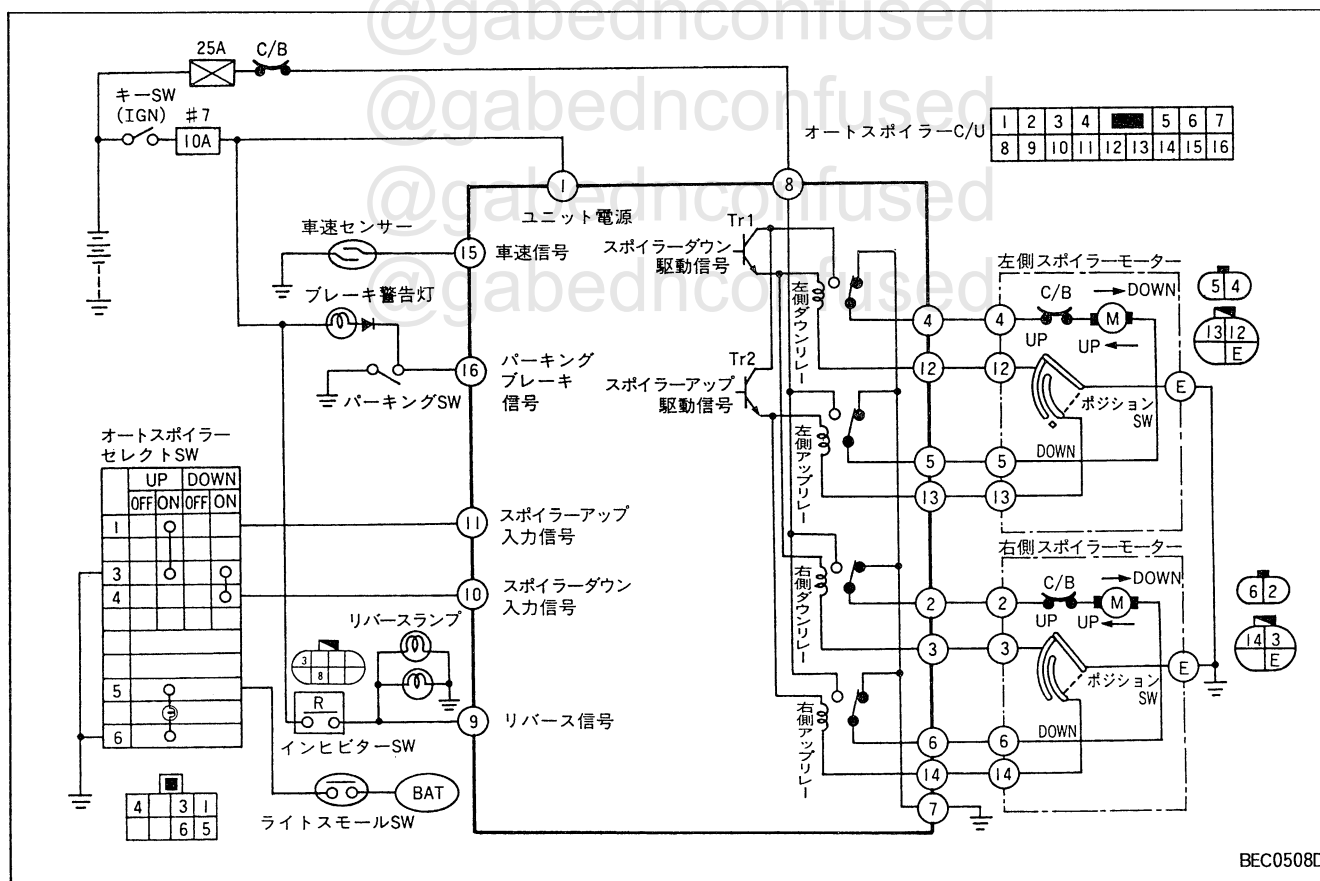
- 車両停止状態で、キースイッチON位置、パーキングブレーキ解除及びトランスミッションのシフトレバーがリバース位置以外にして、セレクトSWをUPにしたとき。
- トランスミッションのシフトレバーをリバース位置にしたとき。
- パーキングブレーキを解除したとき。
- 車両走行中（70km/hでオートスポイラーが下降）車速が50km/h以下になったとき。

# オートスポイラー故障診断

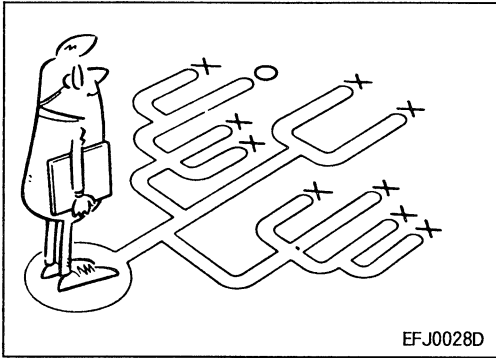
## 構成部品取付位置



## 回路図







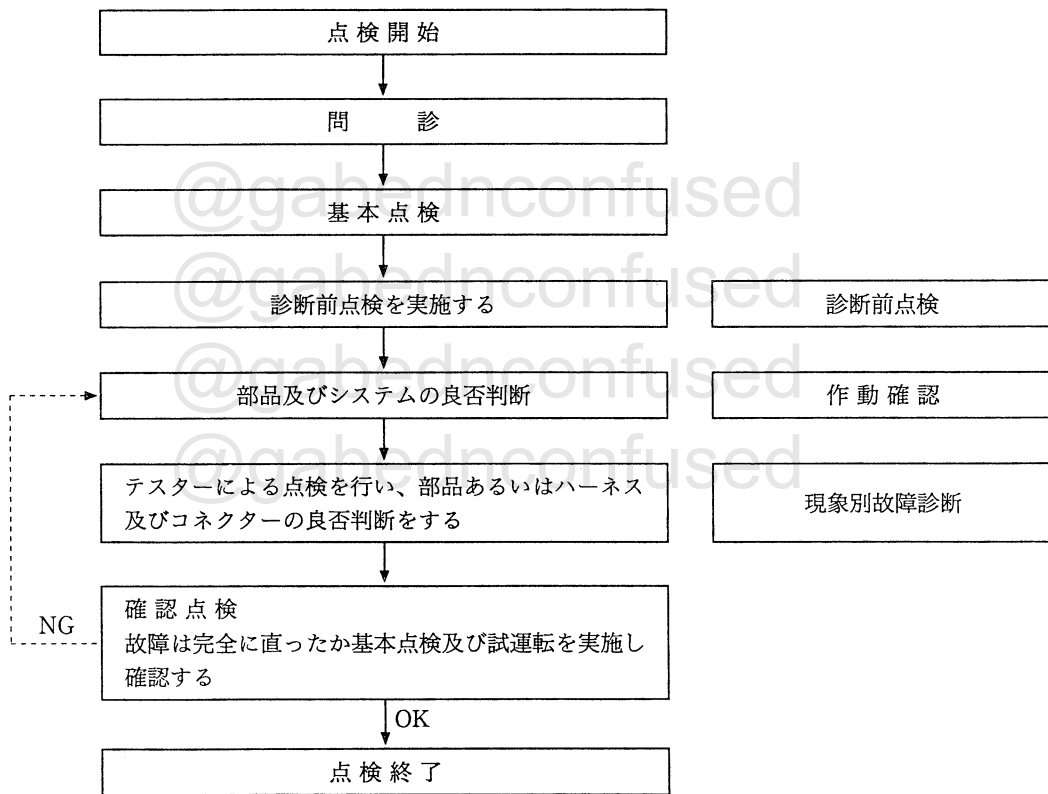
正確、迅速な診断のために

- お客様の説明だけでは車両の状態を把握しきれない場合が多く、実車確認により不具合を再現させて状況を分析する必要がある。不具合を再現できない場合はお客様に発生の状況を確認して特定の条件下で確認する。
- 点検を始める前にお客様がどのような現象に不満を感じているかを明確にしておくことが大切である。

診断上の注意

診断をする前に「GI編電気系統の点検、コントロールユニット及び電子部品に関する注意」の項参照のこと。

診断フロー



BEC0509D

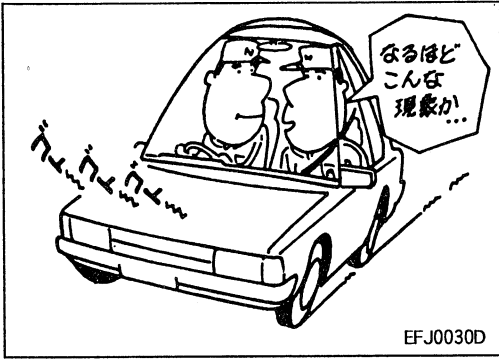
問診のポイント

- 何が ..... 車種、エンジン型式
- いつ ..... 日時、発生頻度
- どこで ..... 道路状況
- どのような状態で ..... 走行状態、環境
- どのようなになった ..... 現象

EFJ0340D

問診

- 不具合に対する感じ方は人により多少異なるため、お客様がどのような現象に不満を感じているかを明確にしておくことが大切である。
- また、どのような状態のときに、どのような不具合が発生するかをお客様に聞いておき実車確認の際の不具合再現の参考にする。
- 問診シートを用意すると聞き漏らしをなくすことが出来るので活用すること。

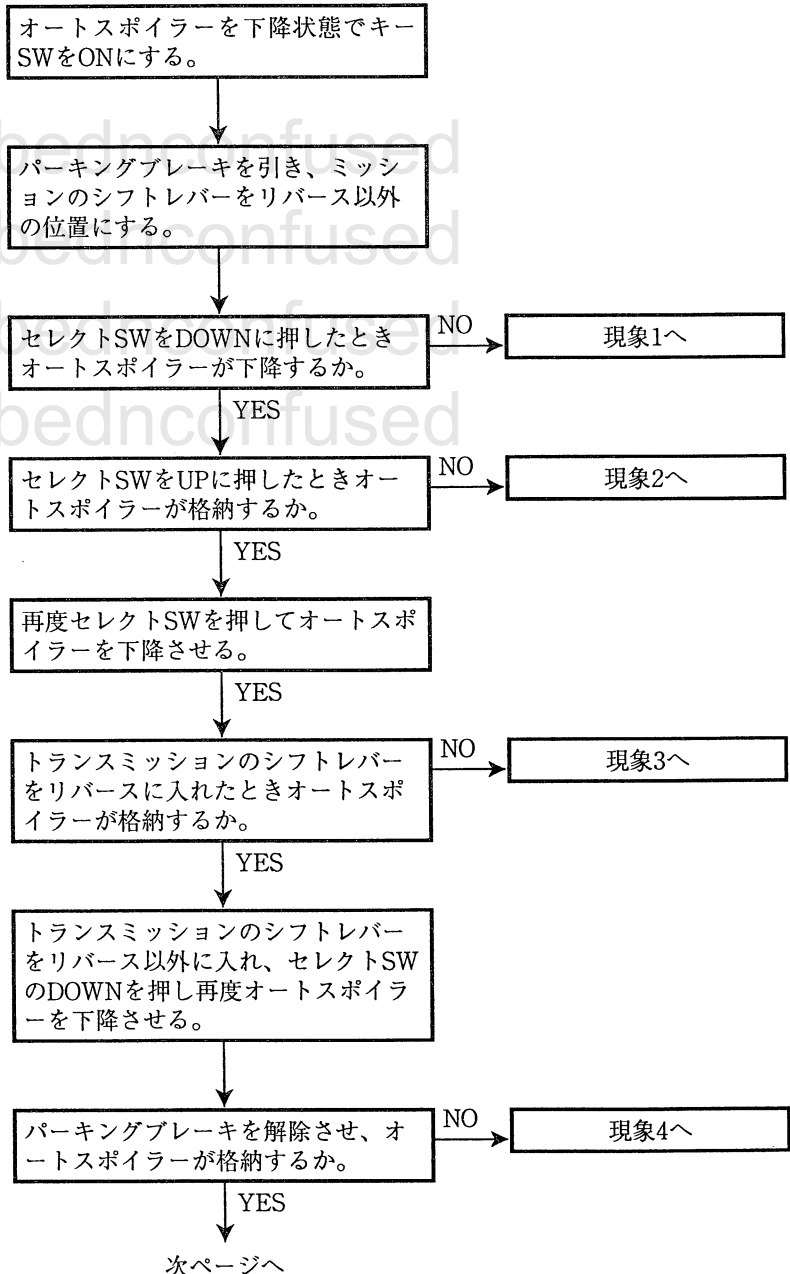


## 現象別の故障診断

### 現象確認

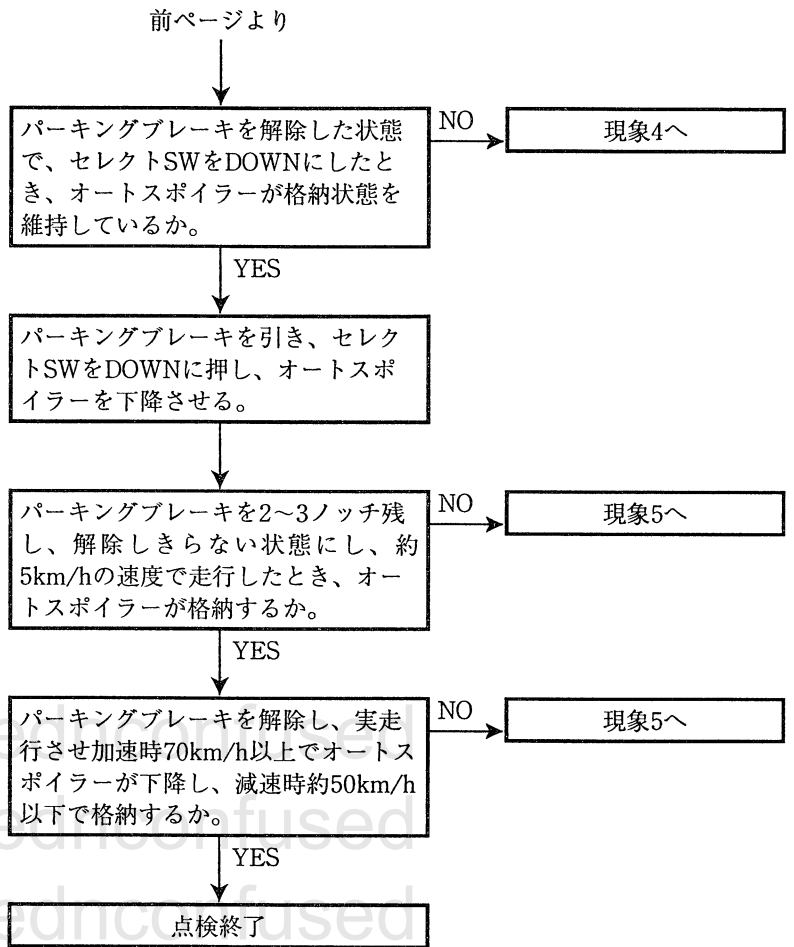
- お客様の説明だけでは車両の状態を把握しきれない場合が多く、実車確認により不具合を再現させて状況を分析する必要がある。不具合を再現できない場合はお客様に発生の状況を確認して特定の条件下で確認する。  
また、再現の乏しい不具合などでは、ハーネスなどを手で動かしながら確認し、接触不良などがいないか確かめることも必要である。なお、実車確認では不具合現象の発生状況だけではなく、正常な部分の状況を把握しておくこと原因の探究に役立つ。
- また、このときに、リアルタイム診断を行いながら現象確認を行う。その不具合発生時にリアルタイム診断で異常が表示された場合、その系統に絞って点検していく。

### 作動確認



# オートスポイラー故障診断

## 作動確認 (続き)



### 故障診断早見表

- 作動確認の結果を下表にあてはめ、該当する各部品を現象別診断のフローチャートにより点検する。

セレクトSWをDOWNにしてもオートスポイラーが下降しない	現象1
セレクトSWをUPにしてもオートスポイラーが格納しない	現象2
トランスミッションのシフトレバーをリバースに入れてもオートスポイラーが格納しない	現象3
パーキングブレーキを解除してもオートスポイラーが格納しない、又は、DOWN SWを押すと下降する	現象4
規定車速になってもオートスポイラーが作動しない	現象5
パーキングブレーキを引いた状態で走行しても、オートスポイラーが格納しない	現象5

現象1 セレクトスイッチをDOWNにしてもオートスポイラーが下降しない

**コネクタ接続点検**  
 C/Uコネクタ及び各コネクタを外し、再度確実に接続し直してから、セレクトSWのDOWN側を押し、オートスポイラーが下降するか。

OK

コネクタ接続不良

NG

**A C/U入力信号点検**  
 • C/Uのハーネスコネクタを取り外す。  
 • キーSWをONにする。  
 • C/U車両側コネクタの各端子からボディーアース間の電圧を測定する。  
 1、8 ~ ボディーアース :約12V

NG

ヒューズ# 15(10A) ~ C/U車両側ハーネス又はコネクタの不良

OK

**B ダウン駆動信号経路点検**  
 • スポイラーモーターの右及び左側のハーネスコネクタを外す。  
 • C/U車両側コネクタ ~ スポイラーモーター車両側コネクタ間の導通を点検する。  
 右側ダウン信号  
 2 ~ 2、3 ~ 3、6 ~ 6 :導通あり  
 左側ダウン信号  
 4 ~ 4、5 ~ 5、12 ~ 12 :導通あり

NG

C/Uの車両側コネクタ ~ スポイラーモーターコネクタ間ハーネス不良

OK

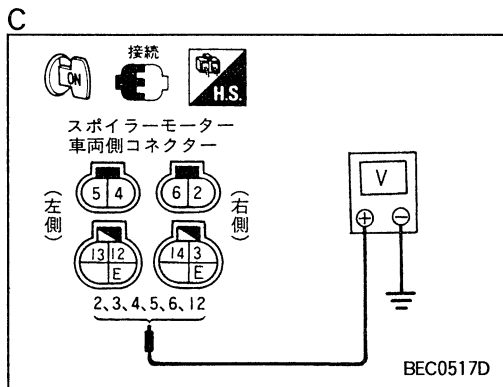
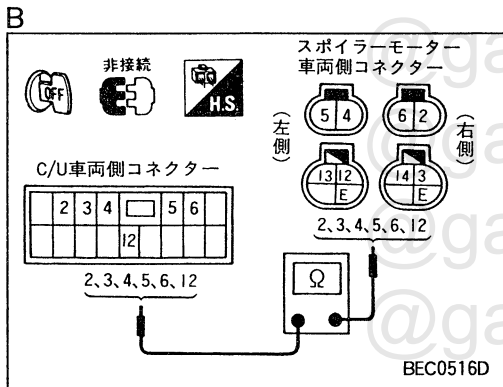
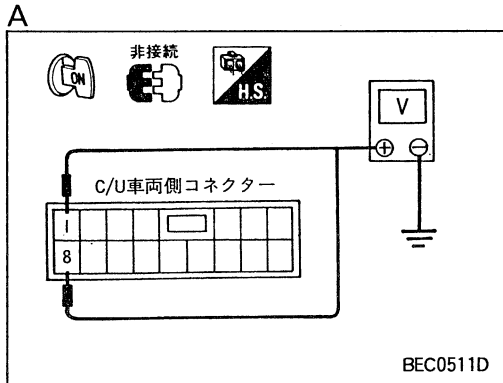
**C スポイラーモーター電源経路点検**  
 • C/Uのコネクタを取り付ける。  
 • キーSWをONにし、セレクトSWのDOWN側を押し。  
 • スポイラーモーター車両側コネクタの各端子 ~ ボディーアース間の電圧を測定する。  
 スポイラーモーター右  
 2、3、6 ~ ボディーアース :約12V  
 スポイラーモーター左  
 4、5、12 ~ ボディーアース :約12V

NG

スポイラーモーター不良

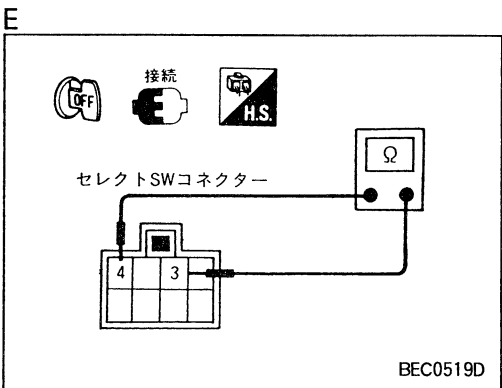
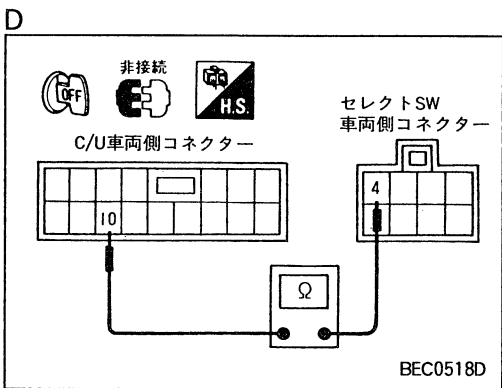
OK

次ページへ

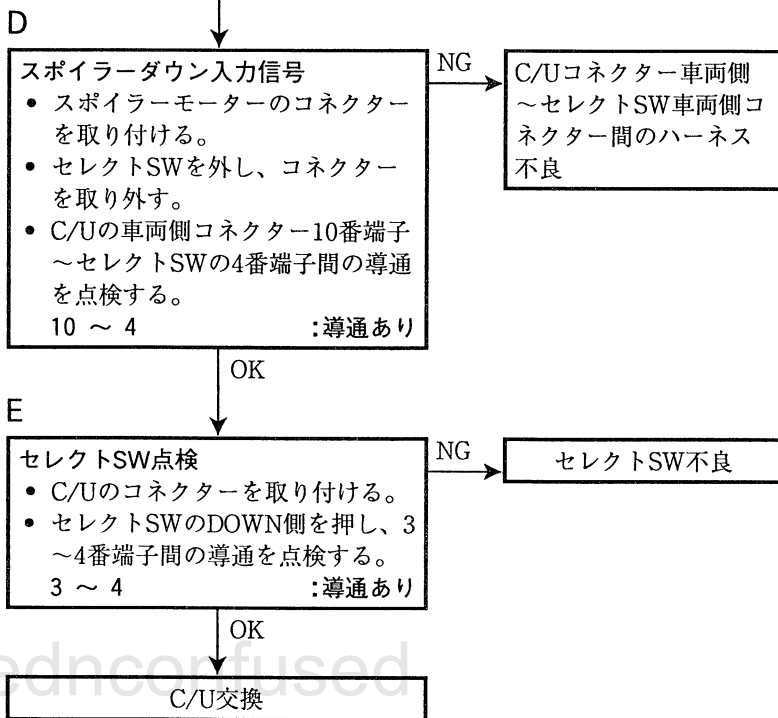


# オートスポイラー故障診断

現象1 セレクトスイッチをDOWNにしてもオートスポイラーが下降しない (続き)



前ページより



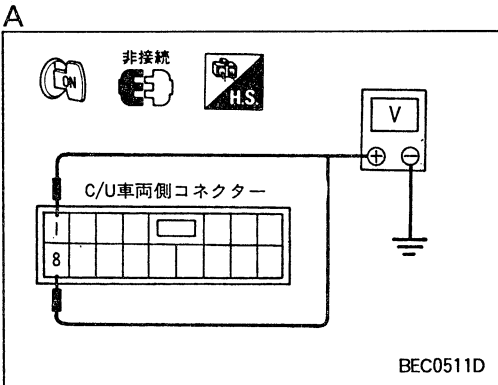
現象2 セレクトスイッチをUPにしてもオートスポイラーが格納しない

**コネクタ-接続点検**  
 C/Uコネクタ-及び各コネクタ-を外し、再度確実に接続し直してから、セレクトSWのUPを押し、オートスポイラーが格納するか。

YES

コネクタ-接続不良

NO



**A C/U入力信号点検**

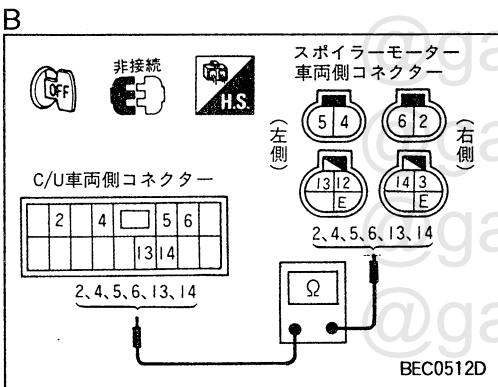
- C/Uのハーネスコネクタ-を取り外す。
- キ-SWをONにする。
- C/U車両側コネクタ-の各端子からボディーアース間の電圧を測定する。

1、8 ~ ボディーアース :約12V

NG

ヒューズ# 15(10A)~ C/U車両側ハーネス又はコネクタ-の不良

OK



**B アップ駆動信号経路点検**

- キ-SWをOFFにする。
- スポイラーモーターの右及び左側のハーネスコネクタ-を外す。
- C/U車両側コネクタ-~スポイラーモーター車両側コネクタ-間の導通を点検する。

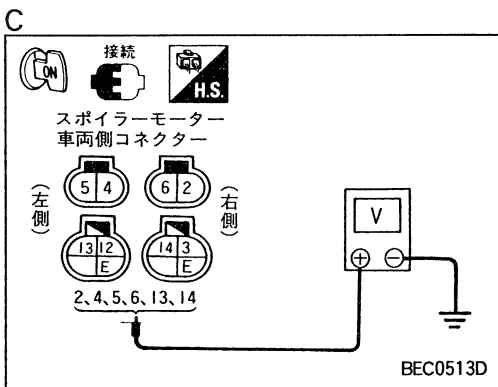
右側アップ駆動信号  
 2 ~ 2、6 ~ 6、14 ~ 14 :導通あり

左側アップ駆動信号  
 4 ~ 4、5 ~ 5、13 ~ 13 :導通あり

NG

C/Uのコネクタ-車両側~スポイラーモーターコネクタ-間ハーネス不良

OK



**C スポイラーモーター電源経路点検**

- C/Uのコネクタ-を取り付ける。
- キ-SWをONにし、セレクトSWのUP側を押し。
- スポイラーモーター車両側コネクタ-の各端子~ボディーアース間の電圧を測定する。

スポイラーモーター右  
 2、6、14 ~ ボディーアース :約12V

スポイラーモーター左  
 4、5、13 ~ ボディーアース :約12V

NG

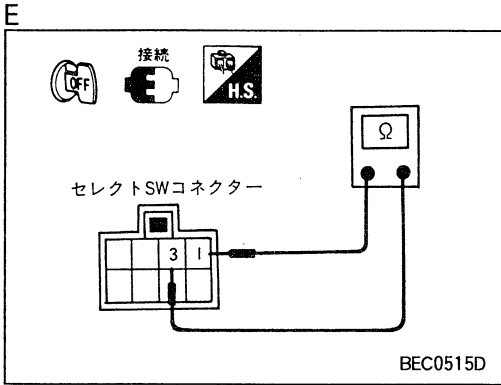
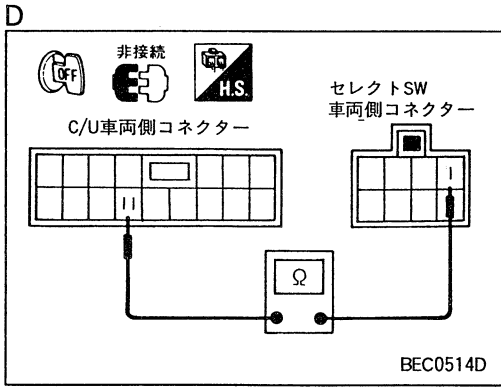
スポイラーモーター不良

OK

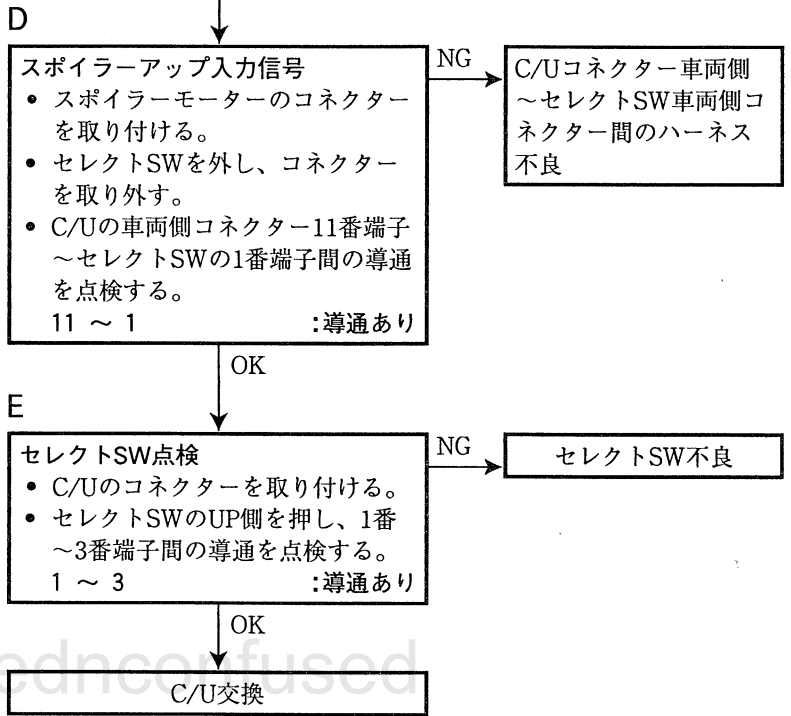
次ページへ

# オートスポイラー故障診断

現象2 セレクトスイッチをUPにしてもオートスポイラーが格納しない (続き)



前ページより



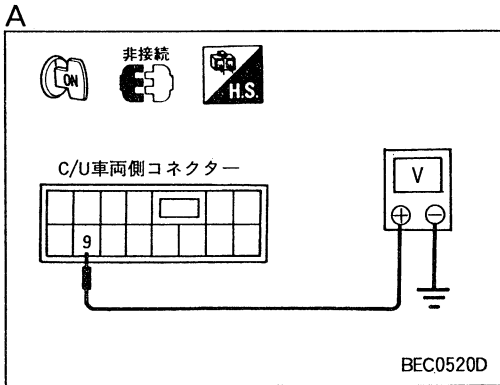
現象3 トランスミッションのシフトレバーをリバースに入れてもオートスポイラーが格納しない

**コネクタ接続点検**  
 C/Uコネクタ及び各コネクタを外し、再度確実に接続し直してから、トランスミッションのシフトレバーをリバースに入れ、オートスポイラーが下降するか。

YES

コネクタ接続不良

NO



**リバース信号入力経路点検**

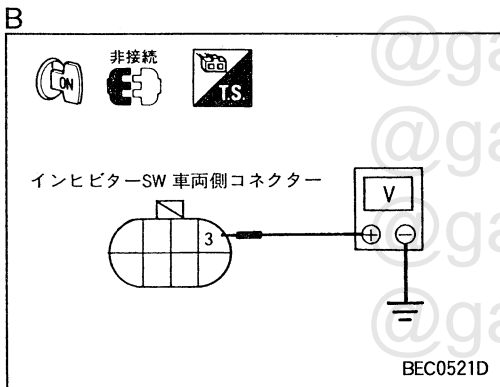
- C/Uの車両側コネクタを外す。
- キーSWをONにする。
- トランスミッションシフトレバーをリバースに入れる。
- C/Uの車両側コネクタ9番端子～ボディーアース間の電圧を点検する。

9 ～ ボディーアース :約12V

OK

C/U不良

NG



**インヒビターSW電源経路点検**

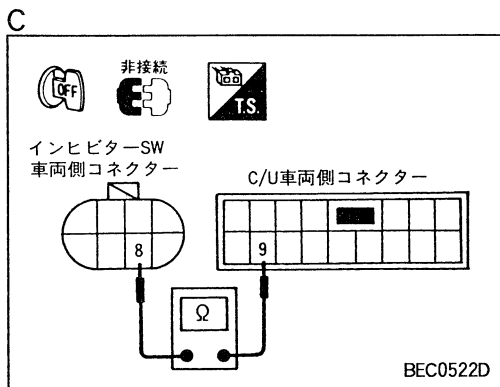
- インヒビターSW車両側コネクタ3番端子～ボディーアース間の電圧を点検する。

3 ～ ボディーアース :約12V

NG

インヒビターSW電源系ハーネス不良

OK



**インヒビターSW経路点検**

- キーSWをOFFにする。
- C/U車両側コネクタ9番端子～インヒビターSW車両側コネクタ8番端子間の導通を点検する。

9 ～ 8 :導通あり

NG

C/U～インヒビターSW間のハーネス不良

OK

インヒビターSW単品交換  
 (「構成部品点検」の項参照)



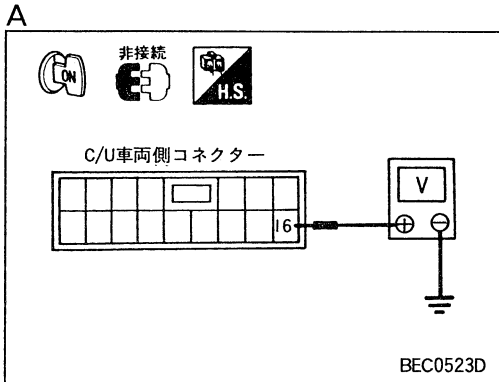
現象4 パーキングブレーキを解除してもオートスポイラーが格納しない、又はDOWN SWを押すと下降してしまう

コネクタ接続点検  
C/Uコネクタ及びコネクタを外し、再度確実に接続し直してから、パーキングブレーキを解除し、セレクトSWのDOWNを押し、オートスポイラーが格納されたままになるか。

OK

コネクタ接続不良

NG



A

パーキングブレーキ信号点検

- C/Uの車両側コネクタを外す。
- キーSWをONにする。
- パーキングブレーキを解除したとき及び、パーキングブレーキを引いたときのC/U車両側ハーネスコネクタ16番端子～ボディーアース間の電圧を測定する。

16 ～ ボディーアース

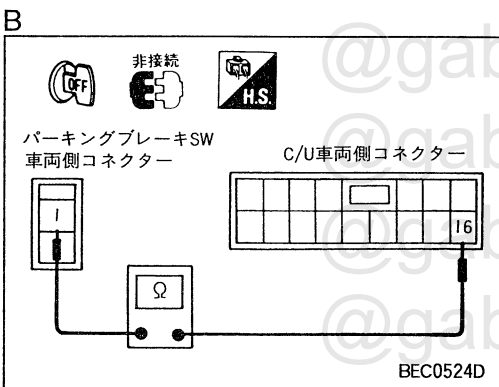
パーキングブレーキを解除したとき :約0V

パーキングブレーキを引いたとき :約12V

OK

C/U不良

NG



B

パーキングブレーキSW経路点検

- キーSWをOFFにする。
- C/U車両側コネクタ16番端子～パーキングブレーキSWのコネクタ間の導通を点検する。

16 ～ 1番端子 :導通あり

NG

C/U～パーキングブレーキSW間のハーネス不良

OK

パーキングブレーキSW不良

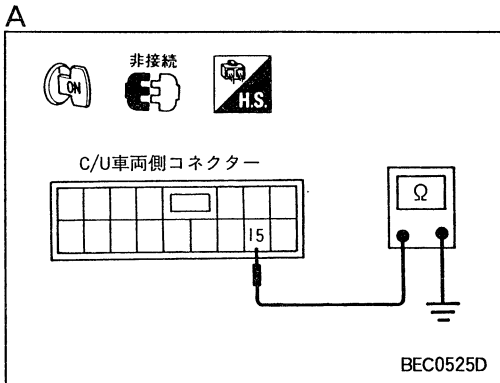
現象5 規定车速になってもオートスポイラーが作動しない、  
又はパーキングブレーキを引いた状態で走行しても  
格納しない

コネクタ接続点検  
C/Uコネクタ及び各コネクタを  
外し、再度確実に接続し直してから、  
走行点検を行う。

OK

コネクタ接続不良

NG



A

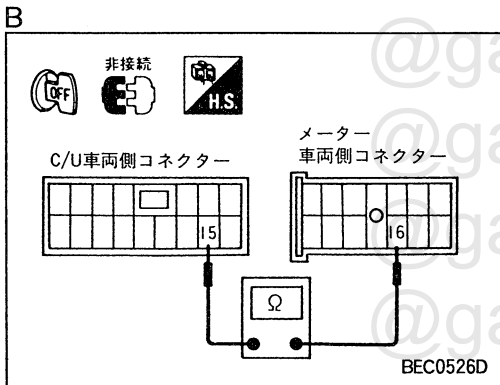
车速センサー信号

- C/Uの車両側コネクタを外す。
- キーSWをONにする。
- パーキングブレーキを解除する。
- ミッションのシフトレバーをリバース以外にする。
- 後輪をジャッキアップし、手で回転させた時のC/U車両側ハーネスコネクタ15番端子～ボディアースの導通を点検する。

15 ~ ボディアース  
:約 $\infty\Omega$  ~ 約 $0\Omega$ を繰り返す

NG

C/U不良



B

车速センサー経路点検

- キーSWをOFFにする。
- C/U車両側コネクタ15番端子～车速センサー(メーター内)16番端子間の導通を点検する。

15 ~ 16番端子  
:導通あり

OK

NG

C/U～车速センサー間の  
ハーネス不良

OK

车速センサー不良